

受注企業動向調査結果

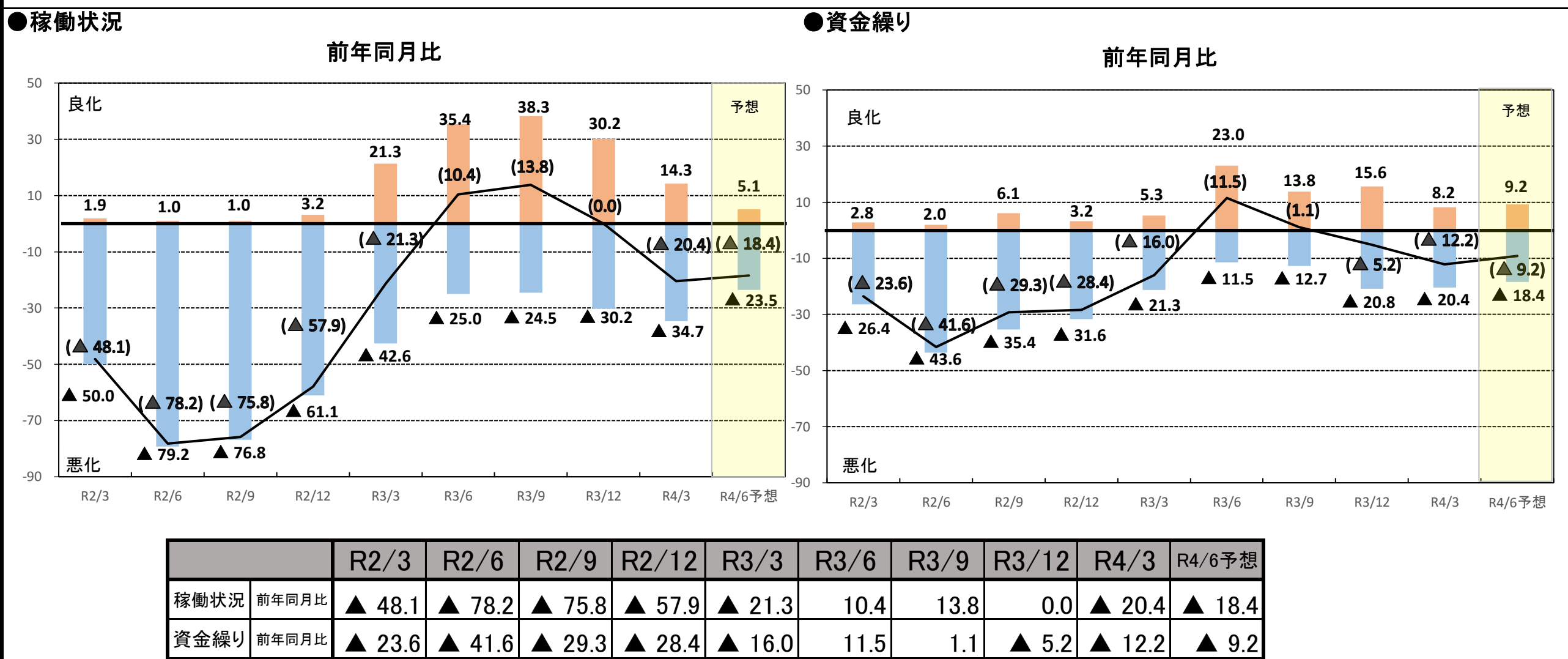
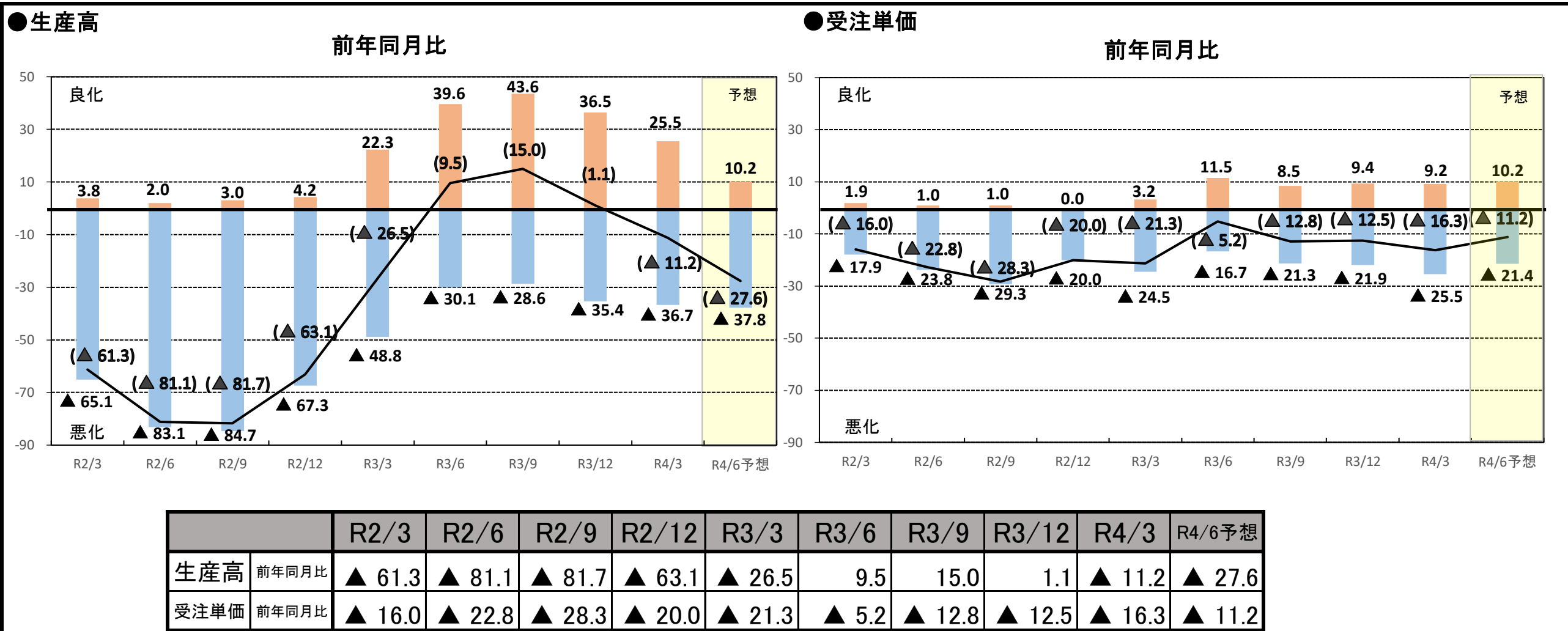
-2022.4-

- 調査時点 令和4年3月調査(令和4年3月末時点)
- 対象企業 150社
- 調査時期 4半期毎(3、6、9、12月末時点)
- 回答企業 98社(回答率:65.33%)

<業種内訳>

プラスチック	8社
鉄鋼・非鉄	8社
金属製品	19社
一般機械器具	24社
電気機器	17社
輸送用機器	6社
精密機器	11社
縫製	5社
計	98社

DI(Diffusion Index)とは、景気の動きをとらえるための指標であり、良化と回答した企業の割合から、悪化と回答した企業の割合を減じた数値です。



●概要(総合)

- ・生産高(前年同月比)DIは▲11.2で前回の1.1から12.3ポイント減となった。
- ・受注単価(前年同月比)DIは▲16.3で前回の▲12.5から3.8ポイント減となった。
- ・稼働状況(前年同月比)DIは▲20.4で前回の0.0から20.4ポイント減となった。
- ・資金繰り(前年同月比)DIは▲12.2で前回の▲5.2から7.0ポイント減となった。

・3ヶ月後の予想DIは生産高が▲27.6で16.4ポイント減、受注単価は▲11.2で5.1ポイント増、稼働状況が▲18.4で2.0ポイント増、資金繰りは▲9.2で3.0ポイント増という予想になった。

・その他自由意見として、

- ・新型コロナウイルス及び半導体不足の影響で、商品や部材等の入荷が遅延している。
- ・部品の納期長期化及び生産中止等により、生産対応に苦労している。
- ・原油価格の高騰により、仕入先からの請求額が上昇している。
- ・材料費が高騰しており、加工単価の上昇を顧客に受け入れてもらわないと 存続が危ぶまれる状況である。
- ・人員を募集しても応募が無く、派遣社員も確保出来ない状況である。人材不足が顕著である。
- ・部材入手困難な状況の中で、新規受注案件や引き合いが増えている。

という意見が寄せられた。